

第1回 資源循環自治体フォーラム

～地方創生 2.0 に向けた官民の連携強化～

第二部 第1・2セッション テーマ8 資料集



令和7年9月12日

大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)

環境省・環境省近畿地方環境事務所

大阪府

3R・資源循環推進フォーラム

第二部プログラム (@4F・5F 各会議室)

(以下敬称略)

◆ 第1セッション (13:45～14:45) / 第2セッション (14:55～15:55)

(1)使用済製品のリユースの推進 @5F 視聴覚スタジオ

<テーマ内容>

- 事業者等と連携し、市民がモノを捨てる前にリユースできるような仕組みづくりについて
- 入学・卒業、引っ越し、生前整理・遺品整理時等のライフステージに応じて出てくる不用品のリユースを推進するにはどうしたらよいか

<プログラム>

- ・「環境省におけるリユースの取組について」 13:45～13:55 / 14:55～15:05
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 齋藤 那奈
- ・「リユース業界団体との連携による 13:55～14:05 / 15:05～15:15
循環型まちづくりの推進」
東京都稲城市 都市環境整備部 生活環境課 ごみ・リサイクル係 遠山 幸樹
- ・「循環型社会の実現 リユースの促進による 14:05～14:15 / 15:15～15:25
ごみ減量事例のご紹介」
株式会社ジモティー ジモスポ事業開発部 事業開発G マネージャー 鑛 太一
- ・意見交換、全体共有 14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ 14:40～14:45 / 15:50～15:55

(2)自治体と事業者が連携したプラ回収・再商品化の推進 @4F 大会議室1

<テーマ内容>

- プラ回収量を増やす、リサイクル率を向上させるための課題について

<プログラム>

- ・「プラスチック資源循環の推進について」 13:45～13:55 / 14:55～15:05
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 容器包装・プラスチック資源循環室 牧 佳希

- ・「KOBE PLASTIC NEXT
エコノバ(資源回収ステーション)」
兵庫県神戸市 環境局 資源循環課 課長 井関 和人 13:55～14:05 / 15:05～15:15
- ・「動静脈×官民連携による
プラスチックリサイクルの高度化について」
大栄環境株式会社 経営管理本部システム部/資源循環システムズ株式会社 取締役 瀧屋 直樹 14:05～14:15 / 15:15～15:25
- ・意見交換、全体共有 14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ 14:40～14:45 / 15:50～15:55

(3)小型家電リサイクル・リチウム蓄電池等の適正処理の推進 @4F 中会議室1

<テーマ内容>

- 使用済み小型家電の回収量を増やし、資源循環を促進するための課題について
- リチウム蓄電池等の分別回収や火災防止対策等の課題について

<プログラム>

- ・「小型家電リサイクル法の最近の動向について」 13:45～13:50 / 14:55～15:00
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 資源循環制度推進室 小林 勇太
- ・「廃棄物処理施設等におけるリチウム蓄電池に
起因する火災事故を防ぐための取組について」 13:50～13:55 / 15:00～15:05
環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 脱炭素調整係長 國分 綾希子
- ・「小型家電リサイクル回収量拡大に向けた取り組み」 13:55～14:05 / 15:05～15:15
一般社団法人小型家電リサイクル協会 会長 金城 正信
- ・「廃棄物分別特化AIエンジン Raptor VISION」 14:05～14:15 / 15:15～15:25
株式会社PFU 次世代事業開発部 Raptor事業開発部 商品開発課 本江 雅信
- ・意見交換、全体共有 14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ 14:40～14:45 / 15:50～15:55

(4)サステナブルファッションの推進 @4F 中会議室2

<テーマ内容>

- 各自治体の現状の課題共有と回収後の出口についての意見交換
- 国から提供する情報やツールに関する意見交換

<プログラム>

- ・「サステナブルファッションの推進 13:45～13:55 / 14:55～15:05
ーこれからのファッションを持続可能にー」
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 田川 怜
- ・「大阪府豊中市における子供服リユース 13:55～14:05 / 15:05～15:15
「おゆずりぐるり」の取組みについて」
特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21 事務局長 廣田 学
- ・「京都市の取組(サステナブルファッションの推進等)」 14:05～14:15 / 15:15～15:25
京都府京都市 環境政策局 地球温暖化対策室 吉澤 佑夏
- ・意見交換、全体共有 14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ 14:40～14:45 / 15:50～15:55

(5-1)下水汚泥資源の肥料利用の推進 @4F 大会議室3 ※第1セッションのみ

<テーマ内容>

- 下水汚泥資源の肥料利用を進めるにあたり必要なことは？
- 自治体・企業として、エンドユーザーに汚泥肥料を使用してもらうために、何をすれば良いと思うか？

<プログラム>

- ・「下水汚泥資源の肥料利用の推進に向けた取組」 13:45～13:55
国土交通省 水管理・国土保全局 上下水道企画課 脱炭素化・資源利用推進室
課長補佐 尾崎 智弘
- ・「資源循環「こうべ再生リン」プロジェクト」 13:55～14:05
兵庫県神戸市 建設局 下水道部 計画課係長 清水 武俊
- ・「循環型社会に向けた下水汚泥肥料の緑地活用
ー 緑化資材のパイオニアとしての取り組みー」 14:05～14:15
富士見工業株式会社 取締役社長室 室長 山本 縁

- ・意見交換、全体共有
- ・まとめ

14:15～14:40

14:40～14:45

(5-2)使用済紙おむつリサイクルの推進 @4F 大会議室3 ※第2セッションのみ

<テーマ内容>

- 使用済み紙おむつのリサイクルを地域で進めるには、何がボトルネックか？
- 紙おむつリサイクルを持続可能にするには、地域のどの事業者と連携できるか？

<プログラム>

- ・「使用済紙おむつの再生利用等の促進に向けた取組について」 14:55～15:05
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 循環型社会推進室
鳥居 哲也
- ・「使用済紙おむつ再生利用プロジェクト」 15:05～15:15
愛知県蒲郡市 企画部 企画政策課 サークュラーシティ推進室長
羽田野 裕昭
- ・「使用済み紙パンツのリサイクルシステムの実現による
プロダクトライフサイクルを通じた循環型モデルの構築」 15:15～15:25
ユニ・チャーム株式会社 Recycle事業推進室
織田 大詩
- ・意見交換、全体共有 15:25～15:50
- ・まとめ 15:50～15:55

(6)食品ロス削減・食品リサイクルの推進 @5F 大会議室2

<テーマ内容>

- 食品リサイクル・・・食品循環資源のリサイクル率向上に向けた自治体の意義・役割
- 食品ロス・・・フードテックによる食品ロス削減(アップサイクルやフードシェア等)

<プログラム>

- ・「食品リサイクル推進に向けて」 13:45～13:50 / 14:55～15:00
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 主査 小田戸 聡
- ・「食品ロス削減に向けて」 13:50～13:55 / 15:00～15:05
消費者庁 消費者教育推進課 食品ロス削減推進室 係長 橋本 浩子

- ・「生活者と企業、自治体の共創がひらく、
食品ロス削減の新たな道」
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 経営企画グループ サステナビリティ推進室
高橋 諒
13:55～14:05 / 15:05～15:15
- ・「奈良市における給食残さの資源化、
食品ロス削減の取り組み」
奈良県奈良市 環境部 廃棄物対策課長
山森 直人
14:05～14:15 / 15:15～15:25
- ・意見交換、全体共有
14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ
14:40～14:45 / 15:50～15:55

(7)家庭ごみの分別回収の推進 @5F セミナー室2

<テーマ内容>

- 分散型資源回収拠点の活用にあたり想定される課題
- 分別収集の実施に向けた課題など

<プログラム>

- ・「一般廃棄物の分別収集について」
環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 主査
石井 颯杜
13:45～13:50 / 14:55～15:00
- ・「資源持込型施設「エコドーム」の活用」
岐阜県輪之内町役場 住民環境課
陸田 友彦
13:50～14:00 / 15:00～15:10
- ・「入間市での官民連携による家庭系廃食油の
回収・リサイクル事業」
埼玉県入間市 環境経済部 エコ・クリーン政策課
榎本 寛
14:00～14:10 / 15:10～15:20
- ・「使用済み油の回収及び持続可能な
航空燃料の普及に関する取り組み」
大阪府吹田市 環境部 環境政策室 主幹
和田 亜由美
14:10～14:20 / 15:20～15:30
- ・意見交換、全体共有
14:20～14:40 / 15:30～15:50
- ・まとめ
14:40～14:45 / 15:50～15:55

(8)森林資源の循環利用の推進 @5F 中会議室3

<テーマ内容>

- 企業や地方公共団体で木材利用を進める(始める)ために、消費者や住民へのアピールに有効な項目は何か
- それらのアピールに取り組む、企業や地方公共団体のインセンティブのために必要な要素は何か

<プログラム>

- ・「森林資源の循環利用の推進(林野庁)」 13:45~13:55 / 14:55~15:05
林野庁 林政部 木材利用課 建築物木材利用促進官 牧野 秀史
- ・「森林資源の循環利用の推進(京都市)」 13:55~14:05 / 15:05~15:15
京都府京都市 産業観光局 農林振興室 木の文化推進課 課長 小林 仁大
- ※・「サステナビリティ経営推進における木造取組」 14:05~14:15 / 15:15~15:25
日本生命保険相互会社 不動産部店舗企画室 調査役 奥野 剛司
- ・意見交換、全体共有 14:15~14:40 / 15:25~15:50
- ・まとめ 14:40~14:45 / 15:50~15:55

◆ 第3セッション (16:05~17:00) @4F・5F 各会議室

- ・各テーマごとの意見交換 @4F・5F 各会議室

- ・スタートアップ企業による革新的な技術やビジネスモデルの紹介

@4F 大会議室3

<プログラム>

- ・「資源循環市場の創出に向けたスタートアップの活動紹介」 16:10~16:20
一般社団法人資源循環推進協議会 事務局長 笹木 隆之
- ・「廃石膏ボードの地産地消型資源循環モデル」 16:20~16:30
株式会社GYXUS 代表取締役 平田 富太郎
- ・「IOTスマートゴミ箱「SmaGO」を、街の”資源循環ステーション”に」 16:30~16:40
株式会社フォーステック 取締役COO 岸 貴義

※日本生命保険相互会社の講演資料については、事情により資料集に含まれておりません。

≪第二部 第1セッション 第2セッション≫

【テーマ8】

「森林資源の循環利用の推進(林野庁)」

林野庁 林政部 木材利用課 建築物木材利用促進官

牧野 秀史

森林資源の循環利用の推進

令和7年9月12日

林野庁

木材利用課 建築物木材利用促進官 牧野 秀史



本日の内容

1. 木材利用を通じた森林資源の循環利用
2. 木材利用の推進に向けて
3. 参考資料

1. 木材利用を通じた森林資源の循環利用

2

森林の多面的機能

- 森林は、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、木材等の林産物供給などの多面的機能を有しており、その発揮を通じて国民生活に様々な恩恵をもたらす「緑の社会資本」。
- 国民が森林に期待する働きは、温暖化防止、災害防止、水源の涵養などといった公益的機能が上位。

■ 森林の有する多面的機能

森林の多面的機能は、一部の貨幣評価できるものだけでも年間70兆円程度

土砂災害防止／土壌保全
・表面侵食防止【28.3兆円】
・表層崩壊防止【8.4兆円】等



水源涵養
・洪水緩和【6.5兆円】
・水資源貯留【8.7兆円】
・水質浄化【14.6兆円】等



保健・レクリエーション
・保養【2.3兆円】
・行楽、スポーツ、療養



地球環境保全
・二酸化炭素吸収【1.2兆円】
・化石燃料代替エネルギー【0.2兆円】



物質生産
・木材（建築材、燃料材等）
・食料（きのこ、山菜等）等



生物多様性保全
・遺伝子保全・生物種保全
・生態系保全



快適環境形成
・気候緩和・大気浄化
・快適生活環境形成

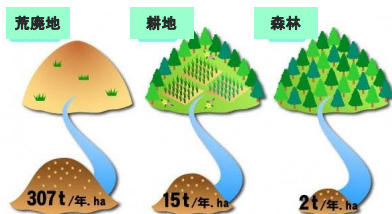


文化
・景観・風致・教育・宗教・祭礼
・芸術・伝統文化・地域の多様性

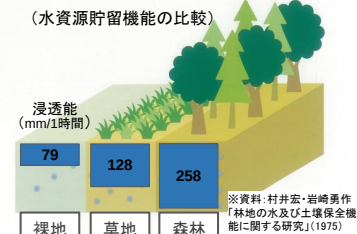


資料：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的機能の評価について」及び同関連付属資料（平成13年11月）
注：【】内の金額は、森林の多面的機能のうち、物理的な機能を中心に貨幣評価が可能な一部の機能について評価（年間）したものである。
いずれの評価方法も、一定の仮定の範囲内での数字であり、その適用に当たっては注意が必要。

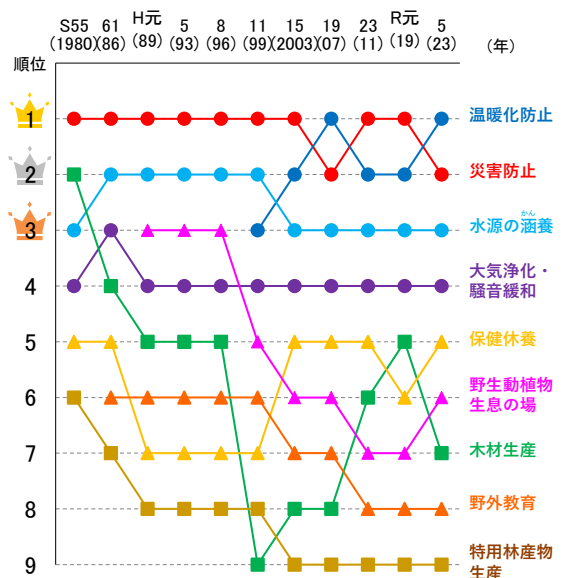
▶ 森林の国土保全機能（流出土砂量の比較）



▶ 森林の水源涵養機能（水資源貯留機能の比較）



■ 国民が期待する森林の働き



資料：総理府「森林・林業に関する世論調査」（昭和55年）、「みどりと木に関する世論調査」（昭和61年）、「森林とみどりに関する世論調査」（平成5年）、「森林と生活に関する世論調査」（平成11年）、内閣府「森林と生活に関する世論調査」（平成15年、平成19年、平成23年、令和元年、令和5年）
注1：回答は、選択肢の中から複数回答。
注2：選択肢は、特になし、わからない、その他を除いて記載。

3

地球温暖化対策と森林と木材

- 2020年以降の気候変動対策における国際的な法的枠組みとして採択された「パリ協定」等を踏まえ、我が国の地球温暖化対策を推進するために策定された「地球温暖化対策計画」を令和7年2月18日に改定。
- 地球温暖化防止には、温室効果ガスの排出削減対策とともに、森林等の吸収源による対策が重要であり、中長期的な森林吸収量の確保や2050年ネット・ゼロの達成に向けた対策を推進。

森林吸収量の計上方法

- 1990年以降に人為的な活動(「新規植林」※1、「再植林」※1、「森林経営」※2)が行われている森林におけるCO₂吸収量を計上。

※1 1990年時点で森林でなかった土地に植林
※2 1990年以降に行った間伐等の森林整備



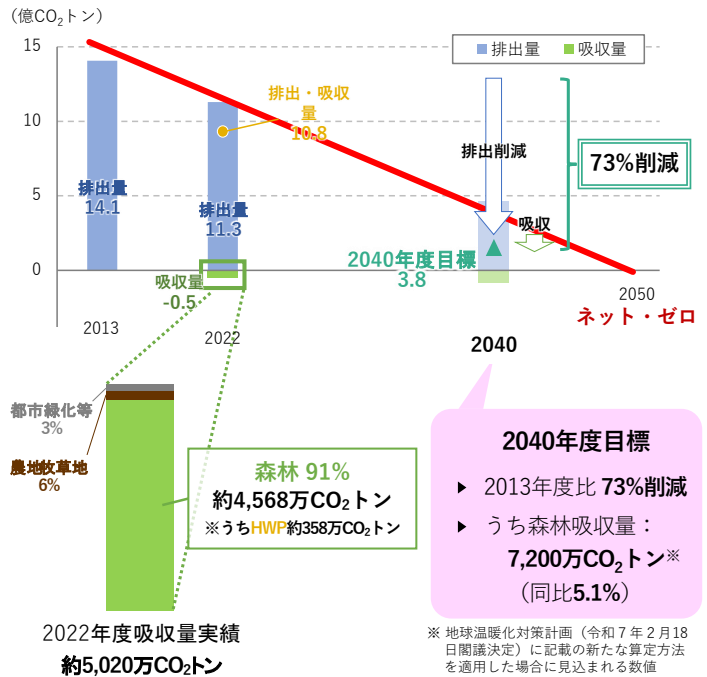
- 国産材の利用について、炭素貯留機能を評価(伐採後の木材も、建築資材などとして使用されている間は炭素を貯蔵しており、焼却等により廃棄された時点で排出に計上)。



2018年のCOP24での決定を踏まえ、我が国は、パリ協定の下でも京都議定書の計上方法等に基づき森林吸収量を算定する旨を「国が決定する貢献(NDC)※3」に記載。

※3 パリ協定の下で、全締約国が5年毎に提出・更新を義務付けられている温室効果ガスの削減目標などを定めたもの。

我が国の温室効果ガス排出削減・吸収の実績と目標

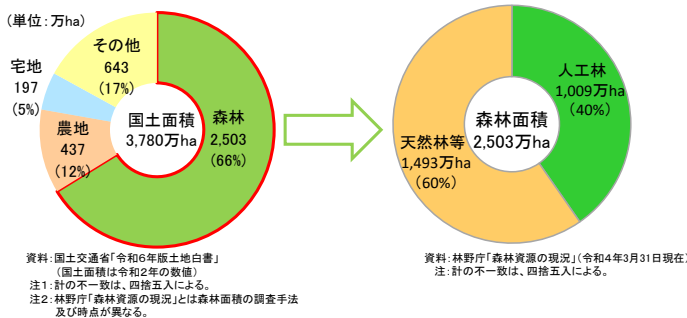


※ 国立環境研究所：2022年度の温室効果ガス排出・吸収量
※ 四捨五入表記の関係で、各要素の累計と合計値は必ずしも一致しない

我が国の森林の概要について

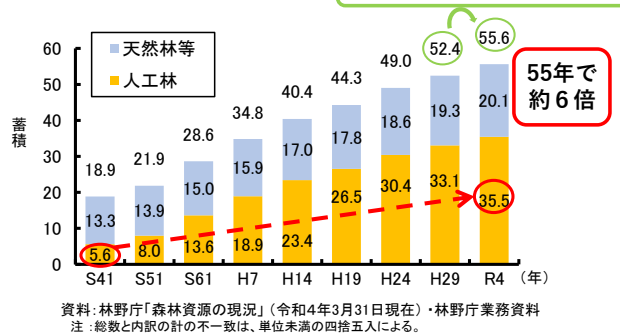
- 我が国の森林面積は国土の3分の2に当たる約2,500万haであり、世界有数の森林国。森林蓄積は人工林を中心に毎年約6千万m³増加し、現在は約56億m³。
- 面積ベースで人工林の6割が50年生を超えて成熟し、利用期を迎えている。この豊富な資源を有効活用すると同時に循環利用に向けて計画的に再造成することが必要。

国土の3分の2は森林

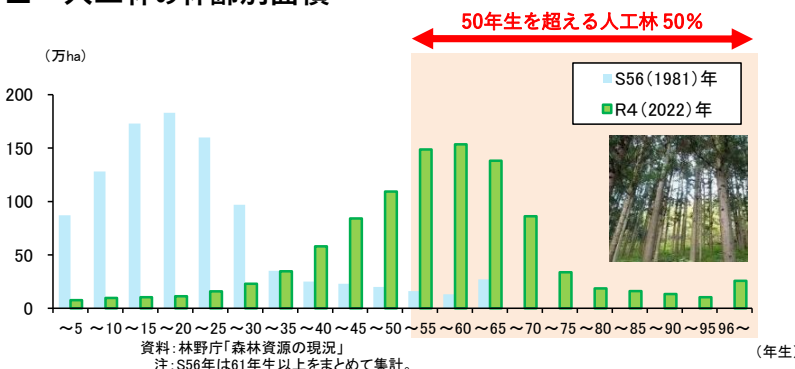


森林蓄積の推移

近年、毎年約6千万m³増加



人工林の林齢別面積



世界との比較

人工林面積上位10カ国

順位	国	人工林面積	人工林率
1	中国	84,700	38.5
2	米国	27,500	8.9
3	ロシア	18,900	2.3
4	カナダ	18,200	5.2
5	スウェーデン	13,900	49.7
6	インド	13,300	18.4
7	ブラジル	11,200	2.3
8	日本	10,200	40.8
9	フィンランド	7,400	32.9
10	ドイツ	5,710	50.0

資料：FAO「世界森林資源評価2020」を元に林野庁作成。
森林・人工林面積の単位は千ha、森林・人工林率は%。

森林資源の循環利用の重要性

- 2050年ネット・ゼロの実現に貢献するためには、適切な森林整備・保全、木材利用の促進等の森林吸収源対策を進め、森林資源を循環利用していくことが有効。
- 木材利用は、①炭素の貯蔵、②化石燃料や他資材を代替、③サイクルを実質的に牽引、という点で重要。くわえて、最も多くの者が参加できる点であることも重要。さらには、地域経済の活性化にも貢献。



吸収源・貯蔵庫としての森林・木材

- 森林はCO₂を吸収**
 - 樹木は空気中のCO₂を吸収して成長
- 木材は炭素を貯蔵**
 - 木材製品として利用すれば長期間炭素を貯蔵

排出削減に寄与する木材・木質バイオマス

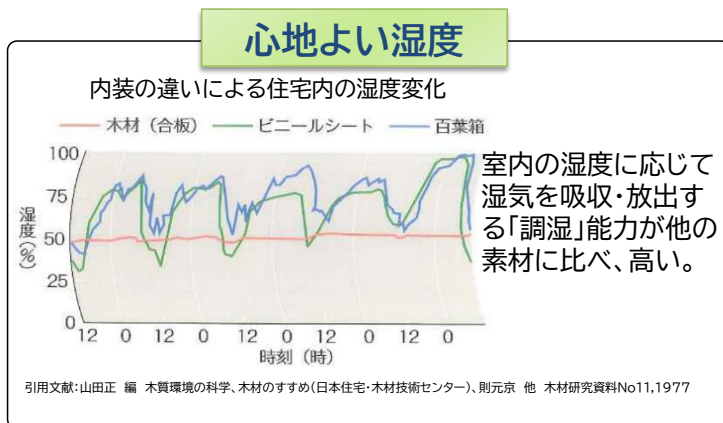
- 木材は省エネ資材**
 - 木材は鉄等の他資材より製造時のエネルギー消費が少ない
- 木質バイオマスは化石燃料等を代替**
 - マテリアル利用により化石資源由来製品(プラスチック)等を代替
 - エネルギー利用(発電、熱利用)により化石燃料を代替

吸収源対策推進に向けた法律改正

- 吸収量の確保・強化**
 - 森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法の改正(令和3年4月施行)…エリートツリー等による再造林を促進
- 木材利用による炭素貯蔵・二酸化炭素の排出抑制**
 - 公共建築物等木材利用促進法の改正(※改正後、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に名称変更)(令和3年10月施行)…公共建築物をはじめ、建築物一般における木材利用の促進

木材利用は快適な暮らし・職場づくりにも貢献

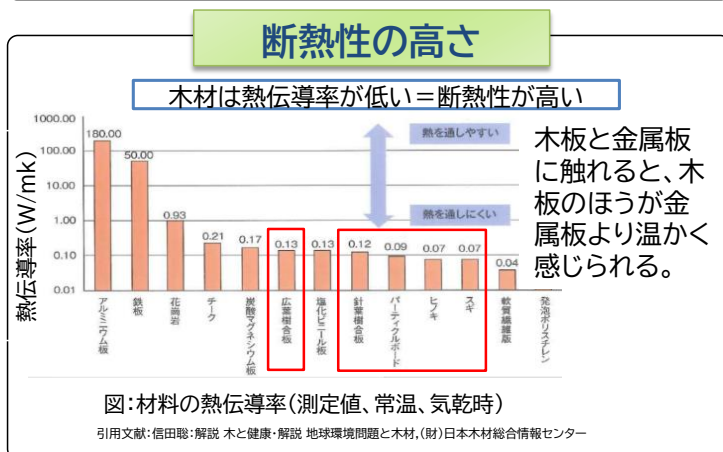
- 木の良さとその効果については、生活に直結する様々な観点から高く評価されている。



心地よい香り

リラックス効果や血圧を低下させる効果、消臭効果など。

医療法人社団中郷会新柏クリニック(千葉県柏市)「公共建築物における木材利用優良事例集」より



衝撃吸収能力の高さ

細い管がびっしり並んでいる構造。これがクッションのような役割。

局所変形による衝撃の緩和

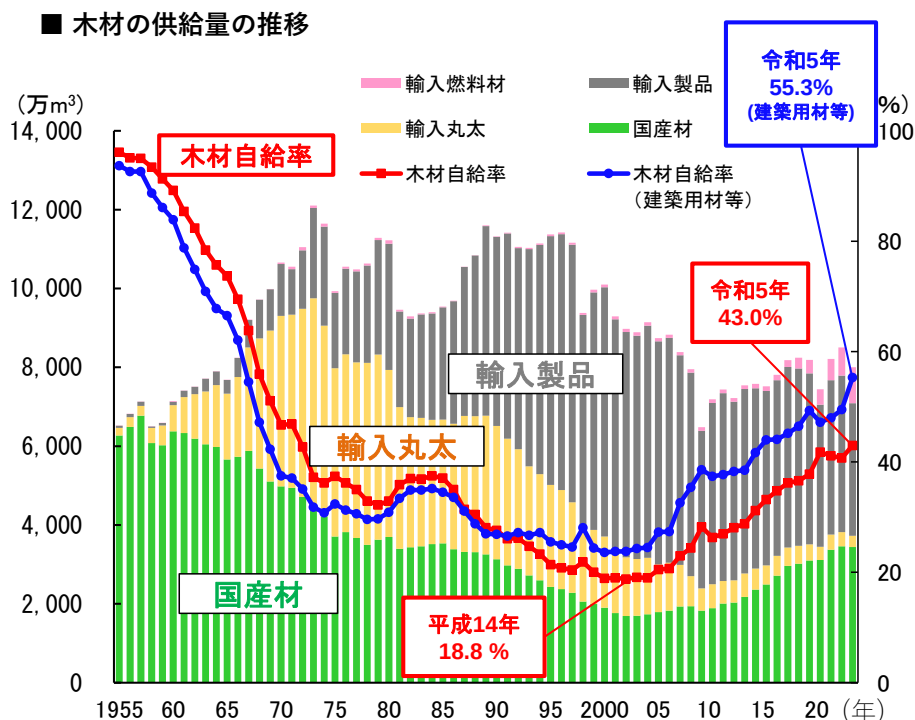
引用文献: (財)日本木材備蓄機構「木がつくる住環境 衝撃編」、(公財)日本住宅・木材技術センター

2. 木材利用の推進に向けて

8

木材の需要・供給の概要

- 木材需要量は、住宅着工戸数の減少等を背景として1996年以降は減少傾向で推移していたが、近年は回復傾向。木材供給量については、木材輸入量が1996年をピークに減少傾向で推移する一方、国産材の供給量は、2002年を底に増加傾向。木材自給率も、2002年の18.8%を底に上昇傾向で推移し、2023年は43.0%。

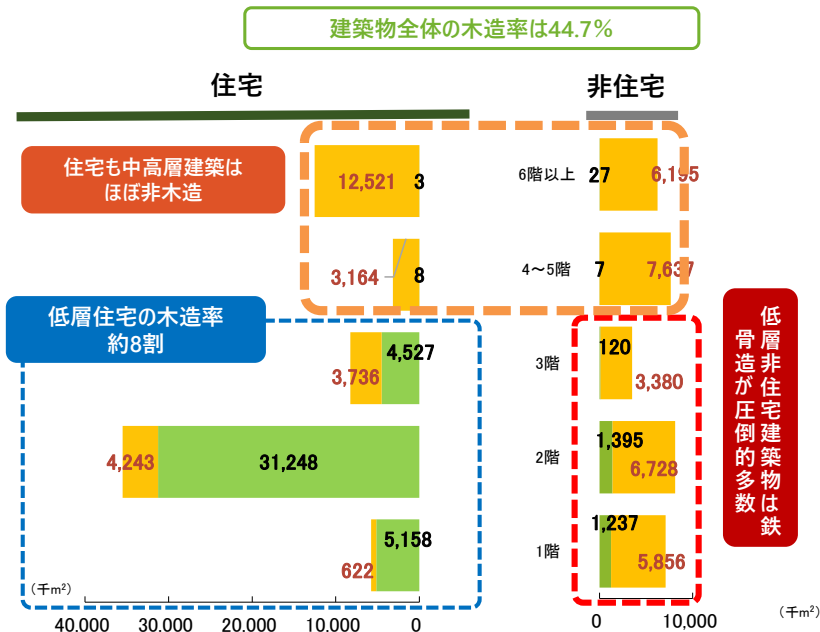


9

建築物での木材利用の状況

- 木材利用の多くは住宅向けで、特に低層の住宅では8割を占める。
- 一方で、非住宅分野と中高層での建築物においては低位。

■階層別・構造別の新築着工建築物の床面積



資料：国土交通省「建築着工統計調査2023年」より林野庁作成。
注：「住宅」とは居住専用住宅、居住専用準住宅、居住産業併用建築物の合計であり、「非住宅」とはこれら以外をまとめたもの。

国産材の需要拡大・利用促進に向けた取組

- 木材の活用が進んでいない非住宅・中高層建築物分野については、技術開発等により木材も利用可能な状況。経済界等の協力も得ながら木造化・木質化を推進。

<非住宅建築物・中高層建築物における需要拡大>

▶**耐火部材**

- 中高層建築物等に求められる耐火性能を有する部材の開発等
- 低コスト化

▶**CLT (Cross Laminated Timber/直交集成板)**

- CLTを活用した先駆的な建築物の建築等の実証への支援等によりCLTの利用を拡大
- CLTの効率的な量産体制の構築に向けて、CLTパネル等の寸法標準化・規格化を推進 (2m x 6mなど)

▶**製材等のJAS構造材**

- 構造計算に対応可能な、品質・性能の確かなJAS構造材の普及
- 一般流通材による構法の開発・普及

■木造の設計者・施工者の育成

- 設計・施工等の技術講習会の実施
- 木質耐火部材やCLT等を利用した設計マニュアルの作成・普及

■標準的な木造化モデルの作成

- 地方の設計者・施工者が、低層・中層の建築物の木造化に取り組んでもらえるよう、一般流通材等を活用した標準的な木造化モデルを作成・普及



■木造建築物におけるBIM利用促進

- 中高層建築物等への木材利用における木材調達、設計・施工の効率化等に向けたBIM活用の環境整備
- 木材のBIM標準オブジェクトの整備
- JAS構造材を生産可能な国内工場等の情報データベースの整備等

BIMを活用した木造建築物のイメージ

■建築物への木材利用の効果の「見える化」

- 木材利用による効果の評価項目・評価方法を整理したガイドの作成・普及

評価分野	評価項目
1. カーボンニュートラルへの貢献	①建築物のエンボイドカーボンの削減 ②建築物への炭素の貯蔵
2. 持続可能な資源の利用	①持続可能な木材の調達 ②森林資源の活用による地域貢献 ③サークキュラーエコノミーへの貢献
3. 快適空間の実現	内装木質化による心身面、生産性等の効果

木材利用促進
の環境整備等

【木材利用の喚起】

- 川上から川下までの関係者による木材利用のネットワークづくり

【木材利用の意義の広報】

- 木の良さや木材利用の意義に関する情報発信、木を活用した優良な製品・取組の顕彰等による消費者理解の醸成

【「木育」活動】

- 子どもへの森林・木材利用に関する教育機会の提供等

【木材輸出の拡大】

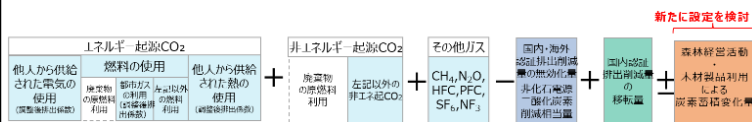
- 高付加価値な木材製品の輸出を拡大

木材の効果の見える化から価値化へ

■SHK制度における木材炭素貯蔵量

- ・ **SHK制度(算定・報告・公表制度)**とは、温対法に基づき、温室効果ガス(GHG)を一定量以上排出する者にGHG排出量の**算定**と国への**報告**を義務付けし、国は報告されたデータを集計し、**公表**する制度。
- ・ 2050年カーボンニュートラルの実現には、排出削減のみならず、吸収・除去量の確保・強化が不可欠であることから、排出量を報告の対象としている**SHK制度において、吸収・除去量の取扱いの検討が進む**。
- ・ 森林分野については、今後、森林吸収量や木材製品炭素貯蔵量が企業の排出削減目標の達成に活用されるよう、**本制度における取扱いを検討**。

<SHK制度における報告項目のイメージ>



■建築物のライフサイクルカーボン削減に向けた取組の推進に係る基本構想(R7.4)

- ・ 日本では、R6.10に**建築物のライフサイクルカーボン算定ツール「J-CAT」**が公開。(木材の炭素貯蔵量は、**ライフサイクルカーボン(排出量)**とともに参考情報として併記可能。)
- ・ 建築物LCAの実施促進に向けて、R6.11より建築物LCAに係る関係省庁連絡会議が設置され、**建築物LCAの制度化等に関する検討**を開始。
- ・ R7.4には「**建築物のライフサイクルカーボン削減に向けた取組の推進に係る基本構想**」を決定。
- ・ 基本構想に基づき、今後、建築物LCAの実施を促す措置や、建築物LCAの算定方法・表示方法の統一化について検討。(木材利用による炭素貯蔵量の評価・表示の在り方も含む。)
- ・ LCA算定に用いる木材の**原単位(EPD等)の充実化**も推進。

<建築物LCAの削減に向けた取組の推進に係る基本構想>の概要>

建築物LCAに係る制度の構築に向けた取組等(主な関係省庁)

- ・ 建築物 LCA の実施を促す**措置の検討**(経産省、国交省、環境省)
- ・ 建築物 LCA **算定方法の統一化**(経産省、国交省、環境省、**林野庁**)
- ・ 建築物 LCA **結果の蓄積**及びライフサイクルカーボンの**標準的な水準の検討**(経産省、国交省、環境省)
- ・ **原単位整備**の促進(**林野庁**、経産省、国交省、環境省)
- ・ **表示方法の統一化**(**林野庁**、経産省、国交省、環境省) 等

12

令和7年7月1日小泉農林水産大臣記者会見(抜粋)

(中略)

林野庁において、「植えて育てる」に加えて、全国各地で「使っていく」取組を拡げてまいりたいと思います。街の木造化を進めることは、森林が吸収した二酸化炭素を長期間貯蔵する等により、地球温暖化防止にも大いに貢献しますので、森の国らしい国づくりに向け、全国で街の木造化を加速する「森の国・木の街」プロジェクトを立ち上げることといたします。

この推進に当たっては、例えば、環境省と連携して、事業者が温室効果ガスの排出量を「算定・報告・公表」する仕組み(SHK制度)に、令和8年度から木材利用の効果を位置付けるといった新たな取組を行ってまいります。地方公共団体や多くの企業に対し、木材利用によるメリットを広く周知することにより、街ぐるみでの木材利用を推進していきます。

13

14

林野庁において、各省庁にも照会し、**建築物の木造化・木質化に活用可能な補助事業・制度等の一覧表**を公表している。
現在、林野庁HPに、**令和7年度予算・令和6年度補正予算**を掲載。

[illegible]

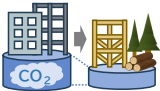
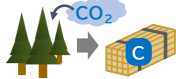
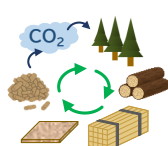
検索



建築物への木材利用に係る評価ガイドンス（林野庁、令和6年3月）

- 建築物での木材利用が積極的に評価されるよう、2024年3月、林野庁は「建築物への木材利用に係る評価ガイドンス」を公表。国際的なESG関連情報の開示の動向を踏まえ、建築物への木材利用の効果に関する評価方法を提示。
- 評価分野の一つとして「カーボンニュートラルへの貢献」に係る効果についても整理。



評価分野	評価項目	評価方法
1. カーボンニュートラルへの貢献	① 建築物のエンボディドカーボンの削減 	✓ ライフサイクルアセスメント（LCA）により算定した、建築物に利用した木材の製品製造に係る温室効果ガス（GHG）排出量を示す。
	② 建築物への炭素の貯蔵 	✓ 林野庁「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」により算定した炭素貯蔵量を示す。
2. 持続可能な資源の利用	① 持続可能な木材の調達（デュー・デリジェンスの実施） 	✓ 利用する木材について、以下を確認していることを示す。（a.はその量や割合を示す。） a. ① クリーンウッド法に基づき合法性が確認でき、かつ、その木材が産出された森林の伐採後の更新の担保を確認できるものであること、又は ② 認証材（森林認証制度により評価・認証された木材）であることのいずれかであること。 b. サプライチェーンにおいて「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」を踏まえた人権尊重の取組が実施されていること。
	② 森林資源の活用による地域貢献 	✓ 地域産材（又は国産材）の利用の有無、利用量や利用割合を示す。 ✓ 地域産材の活用を目的として、地域の林業・木材産業者と建築物木材利用促進協定等を締結していることを示す。 ✓ 産業連関表を用いて、木材利用による地域経済への波及効果を定量的に示す。
	③ サーキュラーエコノミーへの貢献 	✓ サーキュラーエコノミーの観点から、木材は再生可能資源として評価されるものであることを示す。 ✓ 建築物において循環性（サーキュラリティ）を意識した、例えば以下のような取組を実施していることについて、具体的な内容を、可能な場合は定量的に示す。 a. 木材利用により非生物由来の（再生不可能な）バージン素材の利用を削減している。 b. 再利用木材（木質ボード等）を活用している。 c. 解体時の環境負荷を低減する設計を採用している。
3. 快適空間の実現	内装木質化による心身面、生産性などの効果 	✓ 建築物の用途等に応じて、訴求度が高い内装木質化の効果を示す。



普及資料の紹介 - 建物の内装木質化促進-

- 木質化の事例と科学的知見を基に建物の用途等と木質化の効果(心理的・科学的効果等)の関係をわかりやすく示すことにより、建物の内装に木材を用いること(内装木質化)を促すとともに、木質化に取り組むにあたってのアドバイスを示した普及資料を作成。



コンテンツ

- はじめに
- 内装木質化による効果とは？
- 内装木質化の効果のデータ一覧
- 内装木質化した建物に関わる方から寄せられた声や感想
- 内装木質化の事例
- 内装木質化による効果の検証
心理面/身体面/衛生面/学習・生育面/生産性/社会貢献の効果
- 内装木質化に取り組むにあたって



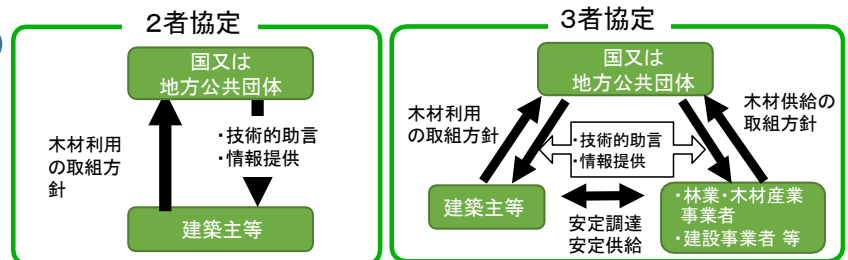
- 「都市（まち）の木造化推進法」※¹に基づき、「建築物木材利用促進協定」制度を創設。
- 建築主となる事業者等は、建築物における木材利用の構想を実現するため、国又は地方公共団体と本協定を締結することができる。
- 令和7年7月4日時点で、**国で26件、地方公共団体で170件**※²の協定を締結。

※1：「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」
 ※2：地方公共団体については令和7年7月4日時点で林野庁が把握している件数。

【協定の内容】

- ① 協定締結者
- ② 構想の内容
- ③ 構想の達成に向けた取組の内容
- ④ 国又は地方公共団体の取組
- ⑤ 協定の対象区域
- ⑥ 協定の有効期間

【協定の形態(イメージ)】



【協定締結のメリット】

- 国や地方公共団体による**技術的助言・情報提供**。
- ホームページでの公表やメディアに取り上げられること等により、当該事業者の**社会的認知度の向上、環境意識の高い事業者として、社会的評価の向上**。
- 国や地方公共団体による、**財政的な支援**。
 （例：一部予算事業における加点等優先的な措置）

≪第二部 第1セッション 第2セッション≫

【テーマ8】

「森林資源の循環利用の推進(京都市)」

京都府京都市 産業観光局 農林振興室 木の文化推進課長
小林 仁大

資源循環自治体フォーラム

森林資源の循環利用の推進

京都市
産業観光局農林振興室

京都と木の文化

京都市は、平安京造営以来の歴史ある林業地

「木の文化」が京都の魅力になっている。

- ・市街地の三方を山に囲まれた山紫水明の都市景観
- ・森林資源を原材料とする伝統産業や伝統文化、祭事や行事
- ・ユネスコ世界文化遺産をはじめとする歴史的建造物や京町家などの木造建築物
- ・北山丸太が支える数寄屋建築や茶室などの和の建築様式
- ・清らかな水に育まれた食材、箸や器などの木製品が形作る食文化 など



寺社の檜皮葺



祇園祭の厄除け粽の原料となるチマキザサ

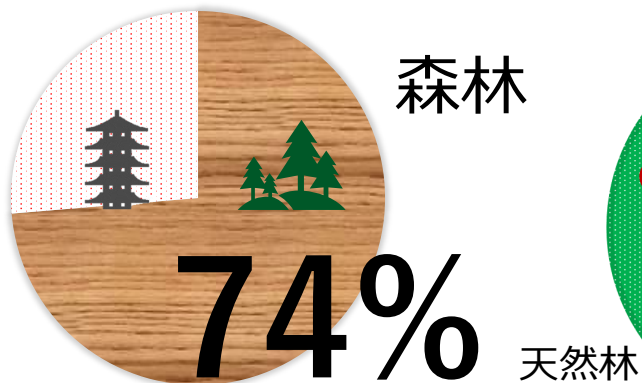


北山美林の景観

京都市の森林について

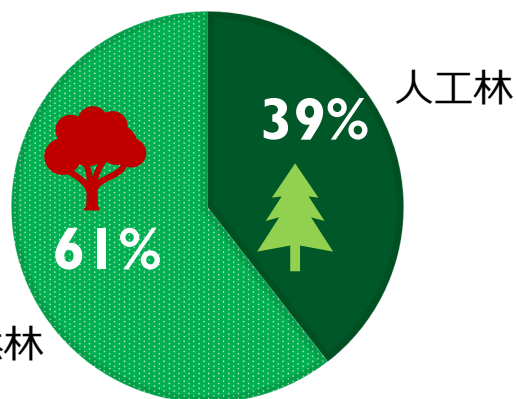
市域の4分の3が森林。森林の約4割が人工林。人工林の7割が50年生を超え利用期を迎えています。

京都市の森林面積



市域面積：82,783ha
森林面積：60,987ha

人工林と天然林の面積



人工林面積：24,050ha
天然林面積：35,326ha
※天然林には竹林等も含む

(出典) 京都府林業統計令和4年版

木を使うことの意義



(出典) 政府広報オンライン「木材を使用して、元気な森林を取り戻そう！」

京都市の森林・林業の課題とその解決に向けた取組み

＜課題＞

① 林業の低迷（木材価格の長期低迷）
山元立木価格はピーク時から9割減
（スギS55（ビーク）：22,707円/ m³ → R5：4,361円/ m³）

② 担い手不足
林業労働者は30年間で8割減
（H元：652人 → R5：142人）

③ 獣害（シカ等の野生鳥獣による食害被害等）
シカ等の野生鳥獣の個体数の増加、
行動範囲拡大により苗木の食害被害等が増加
（シカ府内個体数推計H18：5万頭 → R2：9万6千頭）

④ 自然災害
災害の甚大化により森林被害額が増加
（H30台風21号による風倒木被害額1.8億円）

⑤ 人と森の関係の希薄化
森林を使うことで、機能を取り戻すとともに、地域の活性化を目指す。



木の文化・森林政策推進本部

本部長：副市長、副本部長：木の文化・森林政策監
本部員：局外監、各局区長等
（事務局：産業観光局農林振興室）

幹事会

幹事長：木の文化・森林政策監
副幹事長：都市経営戦略監、都市計画局建築技術・景観担当局長、
建設局防災減災・公園利活用担当局長
幹事：主要ユニットの統括室・部長等

課題解決ユニット（主要5課題ごと）

項 目	ユニット名
① 林業低迷	(1) 木質バイオマス活用促進
	(2) 木材利用・流通促進
	(3) 北山林業の活性化
	(4) チマギザサ再生
	(5) 竹林再生
② 担い手不足	(6) 新たな担い手の育成
③ 獣害	(7) シカ・イノシシ等の活用
④ 自然災害	(8) 倒木の未然防止対策
	(9) 森林伐採・開発行為等事務連携
⑤ 人と森の関係の希薄化	(10) グリーンツーリズム等による観光の分散化
	(11) 木育など環境教育・学習の推進
	(12) 新たな森林利活用促進と応援団づくり

ウッド・チェンジの推進

木材利用の促進に向けた機運醸成や民間事業者との連携により「ウッド・チェンジ」を推進
市内産木材の利用拡大に向けて、市内産木材の公共建築物等での率先利用や民間建築物等での利用を促進

・木材利用促進月間における普及啓発の取組「KYOTO WOOD EXHIBITION 2024」を開催（R6. 10. 26～27）



イベントや展示等への延べ参加者数 **2,215人**

・「京都市建築物等における木材利用基本方針」に基づき、庁舎や公の施設において市内産木材を率先利用



京都市役所北庁舎1階（イス）

京都市役所北庁舎、分庁舎等 **9施設**に什器を導入
洛西陵明・栄桜小中一貫校の整備により、**1,000m³**を使用

・京の木製品認証協議会・京都府との共催により、京都らしさを感じさせる木製品を募集し、優秀な木製品を表彰

最優秀賞【京都市長賞】
組光 KUMIKO Stand Light
株式会社村山木工



応募木製品数 **43点**
表彰数 **14点**

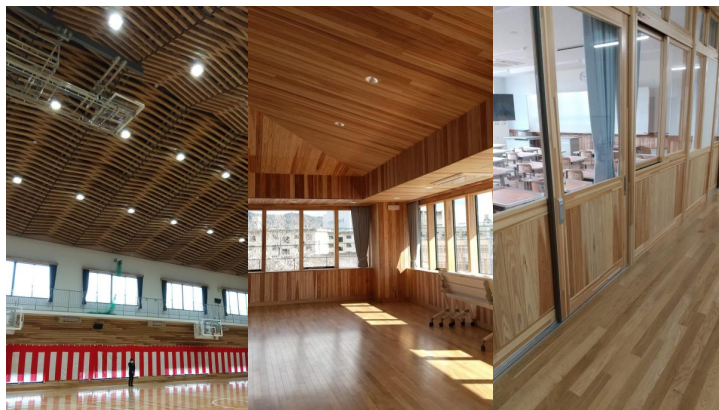


公共建築物の木造・木質化

小中一貫校の整備において、木のぬくもりを感じる校舎とするため、市内産木材「みやこ杉木」を利用し、普通教室の木造化、腰壁、床等内装材についても木質化を推進。

栄桜小中学校

階層 3階建て
構造 鉄筋コンクリート＋一部木造及び鉄骨造
延床面積 13,893m²
木材利用量 600m³
特徴 天井や壁面に木材を使用した体育館
木に包まれた多目的室、木質化により心地よい普通教室



洛西陵明小中学校

階層 3階建て
構造 鉄筋コンクリート＋一部木造及び鉄骨造
延床面積 14,920m²
木材利用量 400m³
特徴 柱や小屋組みが印象的な普通教室
燃え代設計された梁が一部現し



民間建築物の木造・木質化

みやこ杉木の利用補助により、住宅、店舗やオフィスなど民間建築物の木造・木質化を支援。木づかい総合窓口における木材利用の相談対応、木造・木質化建築物の優良事例の発信などを実施。

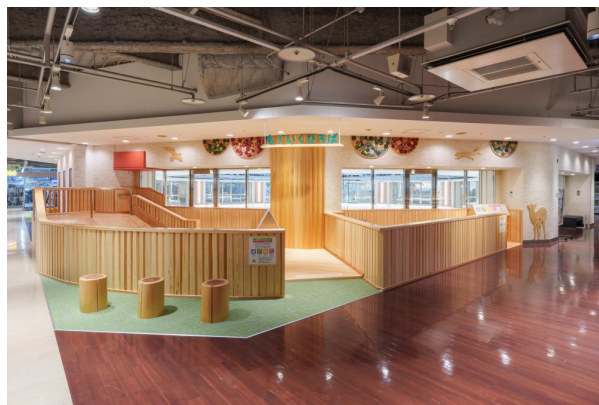
セブンイレブン北鍵屋公園店

- ・ 地域が主体となって柔軟な公園の管理運営を目指す「Park-UP事業」の一環
- ・ 店舗の躯体や内外装に使用している木材は、みやこ杉木を100%使用
- ・ カウンター周辺に北山丸太を配置、内装木質化



イオンモール北大路 もくいくひろば

- ・ 「木育」をテーマとした木のぬくもりを感じられる遊び場。
- ・ 北山杉や桧のみやこ杉木をふんだんに使用し、こどもたちが安心して遊び、京都の木材について学べる場



木材利用促進月間の取組み①

① 木の文化の体験@二条城

○ 開催概要

大阪関西万博を目的に多数のインバウンド客が来日する機会を捉えて、元離宮二条城において、京都の木文化を発信することにより、木を身近に取り入れた日本のライフスタイルへの関心、山間地への誘客、北山丸太・木製品の購買に繋げる。

- 日 時 令和7年10月3日(金)～10月6日(月)
午前10時～午後4時（初日は午前11時から）※予定
- 会 場 元離宮二条城 二の丸御殿台所前庭
- 主 催 京都市ウッド・チェンジアクション推進会議、京都市
- 共 催 未来につなぐ京の木府民会議、京都府
- 出展者 京都市林業関係者 約20団体



発信イメージ



木製品の展示・販売イメージ

② 木エワークショップ・マルシェ@京都市役所前広場

○ 開催概要

森林や木材利用に関わる幅広い事業者等が出展し、市民を始めとした来場者が「みやこ杉木」をはじめとした木材に触れ、親しめる場として木エワークショップや木製品の販売、展示をすることで、森林や木材利用に関する理解を深める。

- 日 時 令和7年10月19日(日)
午前10時～午後4時
- 会 場 京都市庁舎前広場
- 主 催 京都市ウッド・チェンジアクション推進会議、京都市
- 共 催 未来につなぐ京の木府民会議、京都府
- 出展者 約20団体



令和6年度の様子

木材利用促進月間の取組み②

③ 本庁舎和室の解説 × 京都モダン建築祭

○ 開催概要

京都市モダン建築祭の開催に合わせ、京都ならではのおもてなしの場として本庁舎内に整備した「お茶を点てられる和室」に使用されている木についての解説を行い、木の文化について理解を深めることを促す。

- 日 時 令和7年11月1日(土) 11時～、13時半～、
15時～(3回/日)
- 会 場 京都市役所本庁舎 和室
- 主 催 京都モダン建築祭実行委員会、京都市ウッド・チェンジアクション推進会議
京都市
- 対 象 京都モダン建築祭パスポートを所有している方
(デジタル整理券配布 予定)



本庁舎 和室



令和6年度の様子

④ 北山丸太の魅力を知る京の宿「柊家」の見学会

○ 開催概要

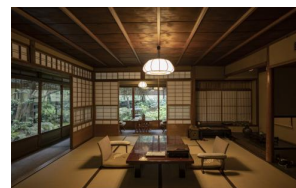
京都の木文化の代表である「北山丸太」の魅力を周知するため、内装に北山丸太をふんだんに使用されている旅館「柊家」の解説を聞くことができる見学会を実施する。

- 日 時 令和7年10月15日(水) 13時～、15時～
(2回/日)
- 定 員 10名×2回
- 主 催 京都市ウッド・チェンジアクション推進会議、京都市
- プログラム

増改築を重ねながらも200年余り創業時の面影を大切に守り続ける京の宿「柊家」。北山丸太をふんだんに使用した伝統ある内装やしつらえを解説いただきます。



柊家外観



柊家旧館

ご清聴ありがとうございました。





Plastics
Smart